

高市改造内閣発足

第26代文部科学大臣に関芳弘衆院議員が就任

——経産副大臣や環境副大臣を歴任、徳島出身の元銀行員——

第2次高市改造内閣が9月17日に発足した。文部科学大臣には関芳弘衆院議員(当選7回、兵庫3区)が就任。初入閣となる。

関氏は徳島出身の61歳。関西学院大学経済学部を卒業後、1989年(平成元年)、住友

銀行(現、三井住友銀行)に就職した。銀行員として16年勤務し、「ビジネスマンとして培った知識や経験を生かしたい」と、2005年の自民党の公募に応募。その年の衆院選で初当選した。現在7期目で、これまで環境

副大臣や経済産業副大臣を歴任した。2015年には英国

立ウェールズ経営大学院で修士号(MBA)を取得している。

18日に松本洋平前大臣から関大臣への事務引継ぎが行われ、関大臣は「松本大臣の功績をしっかりと引き継ぎ、人材育成など文部科学行政を頑張っていく」と語った。



引き継ぎ書を掲げる関新大臣④と松本前大臣



大臣室で引継書に署名する新旧大臣

また、政府は18日の閣議で副大臣と政務官を決定した。文部科学副大臣には青山周平衆院議員(49)と中田宏衆院議員(61)を、文部科学大臣政務官には美延映夫衆院議員(65)と山本大地衆院議員(35)を起用した。

人材育成に意気込み

関大臣「教師の仕事は尊い」

関芳弘文部科学大臣は9月18日、就任後初の記者会見に臨み、「文部科学省が担う教育、科学技術・学術、スポーツ、文化、これらは人の可能性を引き出し、我が国の未来を切り拓く重要な分野だ。それぞれの分野で活躍される現場の皆さまの声を聞きながら、未来への投資を行う文部科学行政をしっかりと前に進めてまいりたい」と意気込みを語った。

さらに、「資源が限られていて我が国においては人材こそが一番大事。あらゆる分野における人材の育成、これが喫緊の課題だ」と

強調。「政府が掲げる戦略17分野の推進については、研究力(の向上)が不可欠な要素だと強く認識している。抜本的強化に取り組んでいきたい」と述べた。

今回、自民党が所属議員に対し役職希望アンケートを実施。これを踏まえ、高市首相は内閣改造と党役員人事に着手した。

アンケートについて関大臣は「国民皆さまお一人お一人がご自身の力を100%発揮できるような世の中にしたい」というのが私の政治家になった理由だ。それを実現できる役職に就けたらいいということを書いた。人事は総理の専権事項だが、文部科学大臣として大学改革や高専・高校等の教育の充実、我が国の未来を担う人材を育成する政策の実現を期待されていることだ」と語った。

また、自身の教育観や学校、教師の仕事について聞かれた関大臣は「学校は重要な場所だ。教師の仕事は本当に尊い。学校は子どもたち一人一人の発想力を豊かにし、可能性を最大限に伸ばす場所だと考えている」「現在、中教審において、先生が生涯にわたって学び続けられる、魅力あふれる仕事にしようと議論がなされている。教師の方々が働きがいと働きやすさを実感できる環境整備・環境づくりをしていきたい」と強調した。



TVドラマ『3年B組金八先生』の大ファンだと話す関大臣